

人文学特殊講義(国語史A)(二〇〇七・春・火四)

土屋博映

☆第一回四月一日(火)

1111教室

「自己紹介」「シラバス」「国語史概要」

- 1、(挨拶)「ごきげんよう」で授業開始。担当した全講義の開始時と終了時に必ず行う。
- 2、(レポート用紙配布)裏側に「自己紹介」。講義開始時のレポートも全講義で行う。
- 3、(講師自己紹介)名前・生年月日・出生地・学歴・職歴・専門分野・趣味・モットー、など手短かに紹介。最初のイメージ作りは大切だから、明るさと親しみやすさを強調。また受講上の注意として、遅刻、私語の禁止、ノートのまとめ(評価の対象)、返却レポートの整理等を掲げた。
- 4、(講義《授業》)シラバスの説明。

人文学特殊講義(特殊講義A群)

○題目・国語(日本語)の歴史の基礎を知る(日本文学コース)

○目的・目標・国語の変遷を、上代から現代までたどり、各時代の特徴を知り、日本語についての知識を豊富にし、日本語に興味を持ち、日本語を愛し、大切にすることを抱かせる。

○概要・国語の変遷を、教科書をわかりやすく丁寧に解説しながら、各時代の特徴を、具体的に・ビジュアルに理解していく。単なる暗記に終わらず、言語の変遷のエネルギーを実感させるようにする。時代背景(文化)などについても考慮して講義する。毎回、反省と復習の意味をこめて、全員にレポートを提出させる。

○スケジュール…1回、国語史概要、2回、

奈良時代までの国語、3～4回、奈良時代の国語、5～6回、平安時代の国語、7～

8回、鎌倉時代の国語、9～10回、室町時代の国語、11～12回、江戸時代の国語、13～14回、明治時代の国語、15回、国語史総まとめ

○評価方法…出欠状況、受講態度、レポート、ノート、試験などで総合評価をする。

テキスト『日本語史』/沖森卓也/おうふう/1995円

○注意事項…遅刻厳禁、私語厳禁、ノートをきちんととり、レポートをしっかりと書くこと。

5、(講義《授業》)テキストのない者は必死でメモするように注意。国語史に興味がなくように歴史的な背景も身につけるこ

と、言葉の変遷について敏感になること、等伝える。

第一部 はしがき

☆国語の言語変化を明らかにするのが国語史。

☆時代区分とは

- ↓奈良時代まで（794）・平安時代（794～1192）・鎌倉時代（1192～1333）
 - ↓1333）・室町時代（1333～1603）
 - ↓1603）・江戸時代（1603～1868）
 - ↓明治以後（1868～）
 - ↓上代（奈良時代まで）・中古（平安時代）・中世（鎌倉室町時代）・近世（江戸時代）・近代（明治以後）
- ☆対象となる言語は共通語中心
- 6、（レポート作成）「ごきげんよう」の挨拶。全講義で、講義終了時の挨拶も必ず行う。テーマは表側に「授業への期待・希望（感想）」。
- 完成者からレポート提出、順次終了。

※本講義は、パソコンとスクリーン使用で行った。最初指定の2283教室はパソコン

ンがうまく使えないので、急遽1111教室に変更。確認不足。テキストをまだ購入していない学生が多いので、画面を利用して、概説程度にとどめた。

☆第二回四月一七日（火）

1111教室

「国語史概要」～「奈良時代までの国語」

- 1、（レポート用紙配布・同時に仮履修票配布）。「国語史を受講する意義」。
 - 2、（導入）前回レポート優秀作品の紹介。表2名、裏8名、表裏2名。毎回、この紹介から講義への流れを作る。テキストのない学生については、授業内容をよく聞き、集中してメモするように伝える。また、次の四点の確認。「1、テキスト 2、ノート 3、レポート（出席を含む） 4、小論文（試験時提出）」。
 - 3、（講義）
- 一、国語史概要

☆復習

二、奈良時代までの国語

☆日本語がどのような系統の言語か、現在でも不明。

☆現代日本人の祖先は後期旧石器時代（3万～1万年前）

☆縄文人↓縄文時代（1万～2千3百年前）・最盛期には30万人・南方アジア的

☆弥生人↓弥生時代（前3世紀～3世紀）・北方アジア人の渡来↓水稲耕作と金属器。その影響は西日本に強く、東日本や

南西諸島には弱い。

☆こうして土着系と渡来系の人たちが日本列島に共生するようになった。

☆日本列島のルーツと日本語の系統は無関係ではない。

5、（レポート作成）「日本人のルーツ」。

※テキストのない学生がまだいるので、進行はゆっくり。テキストに線を引き、画面をノートに写し、解説をする。パターンがまだ十分機能しない。学生は、縄文時代から弥生時代への流れに興味を示す。

☆第三回四月二四日(火)

1111教室

「奈良時代までの国語」

- 1、(レポート用紙配布)「日本語の系統」。
- 2、(導入)

☆前回優秀作品紹介 表1名、裏10名、表裏1名。

3、(講義)

一、奈良時代までの国語

☆開音節↓南方系

☆rで始まる語がない・母音調和がある・接尾辞をつける・目的語を動詞の前におく

↓北方系

☆南方系と北方系が混合された言語が日本語

☆縄文時代のムラから弥生時代のクニへと成長。大和朝廷の成立により奈良地方の言語が中央語としての位置をしめた。紀元1年の日本の人口は30万人、400年には150万人。

☆3世紀の中国の歴史書『魏志』倭人伝に日本語の記載が見える。

☆国内の資料では5世紀のものが最も古い。4、(レポート作成)「日本語の本質」。

※大和朝廷から文字、万葉仮名の成立まで。相沢忠洋氏の旧石器の発見の話、音と訓の意味、稲荷山古墳出土太刀銘、等を詳しく説明。「さいたま」の名称に興味あり。テキストのない学生がまだ多く、授業のスピードはあがらない。

☆第四回五月一日(火)

1111教室

「奈良時代までの国語」

1、(レポート用紙配布)「縄文と弥生」。

2、(導入) ☆優秀作品紹介 表2名、裏2名、表裏なし。

3、(講義)

一、奈良時代までの国語(奈良時代の国語) ☆推古朝(600年前後)からはまとまった資料が残っている。推古朝以降、奈良時代末までの7、8世紀の日本語を上代語という。

二、文字

☆奈良時代までの文献はすべて漢字。4世紀後半から5世紀にかけて漢字が伝来、使われるようになった。↓渡来人から日本人へ↓音(中国語)から訓(和語)へ↓万葉仮名へ

☆『古事記』『日本書紀』『万葉集』の成立(万葉仮名が用いられる)。

三、音韻

☆万葉仮名を通して奈良時代の音韻体系を知ることができる。↓上代特殊仮名遣

☆母音だけの音節は語頭意外には立たない。ラ行及び濁音は文節の初めに立たない。

4、(レポート作成)(ごきげんよう!) 「大和朝廷」。

※いつもは前の授業がぎりぎりまであるのだが、今回は休講のため、パソコン等の準備がスムーズ。10分間の休み時間は、実に短い。万葉仮名と上代特殊仮名遣に重点をおいたが、連休の合間のせいかな、受講生はやや少ない。

☆第五回五月七日(火)

1111教室

「奈良時代の国語」

1、(レポート用紙配布)「古事記と日本書紀」

2、(導入) ☆優秀者発表 表なし、裏6名、表裏1名。

3、(講義)

一、奈良時代の国語

二、文法

☆動詞の活用に下一段活用がない。

☆形容詞・形容動詞の活用はまだ未完成。

☆係り結びも未完成。

☆ク語法(活用語の体言化)・ミ語法(原因表現)の存在。

☆助動詞の「ゆ」「らゆ」から「る」「らる」へ。

☆格助詞の「つ」「な」「ゆ」。

☆敬語の発達(ただし、丁寧語は未完成)。

☆和語が多いが、漢語や梵語なども日常生活で次第に使用されるようになる。

☆『万葉集』では7400語が使われている。

☆純漢文・変体漢文・宣命体・万葉仮名文体。

☆800年には400万人の人口のうち、限定された言語しかわかっていない。

☆『万葉集』の東歌や防人歌には東国方言が知られている。

4、(レポート作成)「万葉集」。

※奈良時代のまとめ。助動詞の活用の確認、「ゆ・らゆ」から「る・らる」へ、等に注目。「まつげ」「まゆげ」の語源に感心していた。

☆第六回五月一五日(火)

1111教室

「奈良時代の国語」↓「平安時代の国語」

1、(レポート用紙配布)「上代特殊仮名遣」。

2、(導入) ☆優秀作品紹介↓表3名、裏3名、表裏なし。

3、(講義)

一、奈良時代の国語

二、文法

☆『万葉集』の東歌や防人歌には東国方言

が存在。

三、平安時代の国語

☆平安時代↓794年〜1192年(桓武天皇〜源頼朝) ↓初期・中期・後期・末期(院政期)

(院政期)

☆初期↓漢詩文盛ん(国風暗黒時代)

☆中期↓平安時代の言語の完成期(伊勢物語・古今集・源氏物語・枕草子)

☆後期↓次の時代への変化(更級日記・栄華物語)

☆末期(院政期) ↓鎌倉時代風(今昔物語集)

4、(レポート作成)「ク語法・ミ語法」。

※「東歌」を解説。平安時代概論、国風暗黒時代、奈良時代との比較、等。テキストはそろって来たので、少しスピードアップ。

☆第七回五月二二日(火)

1111教室

「平安時代の国語」

1、(レポート用紙配布)「平安時代」。

2、(導入) ☆優秀作品紹介↓表2名、裏

2名、表裏なし。

☆吾妻高校出張について話す。また講義も中間点であることの確認。

3、(講義)

一、平安時代の国語

☆上代特殊仮名遣の消滅

☆ク語法・ミ語法の消滅

☆『万葉集』(760年)から1000年ほど、十分な資料がない。↓『竹取物語』

(850年)『伊勢物語』(900年)

☆平安時代の言語は、それ以前のものとは質的に異なったもの。↓奈良から京都という方言的な差異。

☆奈良時代の資料は韻文である。

☆言語資料↓和文・漢文訓読文(和文とは大きく異なる) ↓漢文(変体漢文↓貴族日記)。

☆和文↓『古今和歌集』『源氏物語』『更級日記』(純粹な日本語を平仮名で書いた文献)。

☆漢文訓読文↓訓点資料(漢籍↓『白氏文集』 仏典↓『法華経』※日本語による読

み方をカタカナやヲコト点と呼ばれる記号で記した文献)。

☆訓点資料は当時のものが直接伝えられているところに価値がある。

☆漢文↓辞書↓変体漢文(貴族の日記↓『御堂関白記』)。

4、(レポート作成)「平安時代の言語」。

※平安時代は後世の憧れの時代で、古典文法として評価。言語資料については、和文、漢文訓読、訓点資料等が存在することに注目。

☆第八回五月二九日(火)

1111教室

「平安時代の国語」

1、(レポート用紙配布)「平安時代の言語の資料」。

2、(導入) ☆優秀作品紹介↓表2名、裏

3名、表裏1名。

3、(授業)

一、平安時代の国語

☆平安時代は、万葉仮名から平仮名が生ま

れ、漢字から独立した音節文字によって、勅撰の和歌集や物語・日記・随筆など、多くの文学作品が生み出された時代。

☆『古今和歌集』や『源氏物語』のように、後世古典として尊重される文学作品が誕生したことも重要。

☆平安時代は、一つの理想の時代、あこがれの時代として認識。平安時代の文法が古典文法の規範となるのも同様。

☆万葉仮名↓草書体(くずし) ↓平仮名(和歌・女性)

☆万葉仮名↓省 略(メ モ) ↓片仮名

(仏典・僧侶)

☆濁音は認識していたが、平仮名では重要ではなかった。片仮名では学問上区別ができればよかった。

4、(レポート作成)「源氏物語」。

※万葉仮名から平仮名・片仮名の成立と、それには貴族・女性・僧侶が関わること、濁点の存在はあったが、一般には無視、学問上は必要なこと、八行転呼音、契沖という学者のすばらしさ、等に言及。

☆第九回六月五日(火)

1111教室

「平安時代の国語」

- 1、(レポート用紙配布)「万葉仮名」。
- 2、(導入) ☆優秀作品紹介↓表2名、裏3名、表裏1名。

☆中国に学生を引率するためにパスポートを急遽とりなしたおしたこと、そこから、古代における中国と日本の関係に言及。

3、(講義)

一、平安時代の国語

☆ハ行転呼音↓語中・語末のハ行音がワ行音になる現象。↓仮名遣いの問題発生。

☆ア行とヤ行とワ行の混同発生。

☆動詞・形容詞・形容動詞の活用が整備された。

☆音便の発生。

☆係り結びが高度に発達。

4、(レポート作成)「ハ行転呼音」。

※鎌倉時代は、武士の時代ということで、学生には興味あり。価値観がひっくりかえった時代、若い僧侶たちが新仏教をリード

したと、論理的思考が広がっていくのが面白いこと、等に注目。日蓮の偉大さに言及。

☆第一〇回六月二二日(火)

1111教室

「鎌倉時代の国語」

- 1、(レポート用紙配布)「鎌倉時代」。
- 2、(導入) ☆優秀作品紹介↓表2名、裏2名、表裏なし。

☆今回は公開授業のつもりで行う、と宣言。

3、(講義)

一、鎌倉時代の日本語

☆源頼朝が関東の地鎌倉に幕府を開いた1

192年より、後醍醐天皇による建武の中

興(1333年)まで。

☆平安時代の貴族を中心とした政治体制が終わり(平安末期の院政期から変化は起こっていた)、中央に進出した武家による政治が行われた日本の歴史における変革期。

↓政治の変革が社会や文化、さらに日本語に反映した。

☆文化の担い手は平安時代の貴族や学者か

ら、鎌倉時代の一般僧侶や武家、一般大衆まで拡大化。↓鎌倉新仏教(法然・親鸞・道元・日蓮)は仮名による平易な文章の必要性を認識していた。

☆古代語と近代語の境界が中世語であり、鎌倉時代語は、平安時代語の継承と新しい中世語の創造という二面性を持っている。

☆(一) 新しい言語。(二) 論理的表現。

(三) 地方語の発展。

4、(レポート作成)「鎌倉時代と平安時代」。

※今年度は「公開授業」という制度がなくなったので、今回の授業は「公開授業」のつもりで、「上代〜現代」までのプリントを配布しておこなった。鎌倉時代・室町時代の位置を確認した。鎌倉時代が好きな学生が多いので好評だった。

☆第一一回六月一九日(火)

1111教室

「鎌倉時代の日本語」↓「室町時代の国語」

1、(レポート用紙配布)「鎌倉時代と平安

時代の言語の相違」。

2、(導入) ☆優秀作品紹介↓表なし、裏5名、表裏1名。

「☆6月26日より、テキスト・ノート・レポートチェック。14時40分〜50分↓三点セットに当日のレポート用紙に必要事項記入の上、提出、押印をうける。(但し、☆7月10日は授業評価) ☆12回(6月26日) ☆13回(7月3日) ☆14回(7月10日・授業評価)」

「☆7月24日(15回) 試験日 小論文提出(15時40分〜16時10分) テーマ↓表側・明治以後の日本語について論述せよ。裏側当日テーマ発表」

「5回以上欠席者(10回中) 3名」

3、(講義)

一、鎌倉時代の日本語

二、室町時代の日本語

☆建武の新政(後醍醐天皇・1333年)

↑↓室町幕府(足利尊氏・1336年)

☆南北朝時代(1336年〜1392年)

☆応仁の乱(1467年〜1477年) ↓

戦国時代

☆江戸幕府(徳川家康・1603年) までの270年間を室町時代として扱う。

☆社会は大混乱に陥り、あらゆる社会的権力や権威を一揆に崩壊させ、古い社会秩序からの大転換がおこる。↓権力により支配されない庶民が、実利を求め、したたかに生きていく。

☆商工民など流通経済の発達などにより都市文化の発達には目ざましいものがある。

☆そうした背景から識字層が拡大する。↓多くの辞書が作成される。↓かなりの当て字が通用

4、(レポート作成) 「室町時代」。

※鎌倉時代は現代語への源流、係り結び消失へ、二段活用的一段化傾向、接続詞の多用、丁寧語が「侍り」から「候ふ」へ、和漢混交文の流行、等について講義。

☆第一二回六月二六日(火)

1111教室

「室町時代の国語」

1、(レポート用紙配布) 「室町時代の言葉」。

2、(導入) ☆優秀作品紹介↓表1名、裏4名、表裏1名。

「☆6月26日より、テキスト・ノート・レポートチェック」。

「☆7月24日(15回) 試験日 小論文提出(15時40分〜16時10分) テーマ↓表側・明治以後の日本語について論述せよ。裏側当日テーマ発表」

「☆5回以上欠席者(11回中) 4名」

3、(講義)

一、室町時代の日本語

☆能・狂言の流行↓狂言は多くの話し言葉を残す。

☆民衆が初めて歴史の表舞台に登場。↓御伽草子

京都に足利幕府が開かれ、活気あふれる都鄙混交文化を生み出す。

☆現代語の源流。

☆学問の世界では、公家の権威が衰退し、代わって僧侶が活躍。

☆海外との交流も活況。1543年、ポルトガル人種子島漂着。↓キリシタン資料。

『平家物語』『伊曾保物語』『日本大文典』(ジョン・ロドリゲス、各地方の詳しい記述あり)『日葡辞書』

4、(レポート作成)「室町時代の言語の資料」

※「湯桶読み」と「重箱読み」に興味を示す。相当難しいと感じているようだ。室町時代・戦国時代も学生の好きな時代である。

☆第一三回七月三日(火)

1111教室

「室町時代の国語」

1、(レポート用紙配布)「能・狂言」。

2、(導入) ☆優秀作品紹介↓表1名、裏2名、表裏1名。

「☆テキスト・ノート・レポートチェック」

「☆7月24日(15回) 試験日 小論文提出(15時40分～16時10分) テーマ↓表側・明治以後の日本語について論述せよ。裏側当日テーマ発表」

「☆6回以上欠席者(12回中) 4名」

3、(講義)

一、室町時代の日本語

☆古代語から近代語への変化が一層激しく進行した時機。口語と文語の格差が広がるが、口語資料は豊富。

☆片仮名は現在に近くなつたが平仮名は変体仮名がまだ多く残る。仮名の主流は平仮名となり、庶民にも平仮名の使用が広まる。

☆母音はa・i・u・je・woであった。

☆ウ段とオ段に長音が発生。

☆四つ仮名の区別は残る。

☆連声が盛んに行われた。

☆文法では、係り結びの衰退。「こそ」の

係り結びだけは残るが、他は消滅。

☆可能動詞が出現。

☆助動詞も古代から現代へと変化。

☆待遇表現は、尊敬表現が発達。また丁寧語が発達した。

☆語彙は、漢語の語彙量の増大。また唐音が見られる。西洋語が始めて伝わった。位

相語としては女房詞が有名で、武家詞も使

われていた。

☆和漢混交文が文章の主流。文書は変体漢文。書簡は「候文体」。

4、(レポート作成)「室町時代の音韻」

※ようやく室町時代が終了。予定より遅い。

1・2回目に学生がテキストを持っていれどという愚痴も出るが、もう少し、画面に整理して、画面が主、テキスト従、としなくてはいけなかつたと反省。

☆第一四回七月一〇日(火)

1111教室

「江戸時代の国語」～「明治時代以後の日本語」

1、(レポート用紙配布)「室町時代の語彙」。

2、(導入) ☆優秀作品紹介↓表2名、裏3名、表裏1名。☆皆勤賞↓11名。

「☆テキスト・ノート・レポートチェック」

☆15回(7月24日・試験日) 小論文提出(15時40分～16時10分) テーマ↓表側・明治以後の日本語について論述せよ。裏側・当日テーマ発表」

「☆6回以上欠席者(13回中) 4名」

☆授業評価で、時間が短いことを告げる。

4、(講義)

一、江戸時代の日本語

☆1603年徳川家康が江戸幕府を開いてから、1867年に大政奉還により幕府が終わるまでの約60年間は日本の封建制度が最高度に発達した時期。

☆身分制度の影響が言葉の上にも見られる。

☆長い平和な時代が続いたため、日本語も激しい変化は見られず、①話し言葉と書き言葉の差、②地域による言語の差、③階層による言葉の差、などが特色。

☆中でも、①上方語と江戸語、②武士の言葉と町人の言葉、の対立が特徴。

☆宝暦(1751~1764)が境となり、前期(上方中心)と後期(江戸中心)に分けて考える。

☆上方語の四段活用「足る」「借る」が江戸語では「足りる」「借りる」など上一段活用である。断定の助動詞は上方では「ぢや」で、江戸語では「だ」である。ナ変が

上方では残るが、江戸では四段が一般。

☆武士の言葉と町人の詞は大きく相違していた。↑身分制度が厳しかったため。

☆文字は、識字層が広がる。↓出版事業、庶民教育。仮名の主流は平仮名。契沖の「歴史的仮名遣」。

☆音韻では、それまで区別があった音韻が一つになるという変化(単純化)がおこる。

↓オ段長音・四つ仮名・合拗音・「え・お」・「せ・ぜ」・ハ行子音

☆連母音の音訛

☆二段活用の一段化

☆動詞の活用5種類

☆仮定形の成立へ

☆敬意の段階に応じて代名詞が使い分けられていた。

☆「ます」「です」が広まった。

☆漢語が尊重
☆文章は漢文が正式なもの。
☆方言書が各地で作られた。
☆江戸語が共通語としての地位を握るようになった。

二、明治以後の日本語

☆1868年に首都が東京に移り、明治時代が始まった。

☆明治時代は、外国から新しい文化や事物が流入する中で、激しい変化をとげた時代であるといえる。

☆その変化は、文法や音韻といった根幹部分ではなく、語彙や文体といった言語の運用に関する部分で大きく変化した。

4、(レポート作成)「江戸時代」

※今日は授業評価で、時間が短い。極力要点を絞って、何とか江戸時代を完了。さらに、明治時代以降の概説をし、後は小論文にその内容を提出してもらうことにする。

☆第一五回七月二十四日(試験日)

1111教室

「小論文提出」(15時40分~16時10分)

1、(レポート用紙配布)「江戸時代の日本語」。

2、(導入) ☆優秀作品紹介↓表1名、裏2名、表裏なし ☆皆勤賞↓11名。

「☆テキスト・ノート・レポートチェック。
未提出者（確認）5名」

「☆6回以上欠席者（14回中）4名」

※「国語学概論」「国語音声学」に続いて、「国語史」でもパソコンを利用することにしました。本来通年であるべき「国語史」を半期でやり終えるためには、パソコン画面を利用しなくては始まらない。見やすいし、画面に掲示した後は、教室内をまわり、学生の様子を見ることができ、質問に即答できるよさがある。またレポートは各授業で、授業開始前と終了前に、必ず書かせることにしているが、これは格別の効果があると思う。評価を受ける学生にやる気が出るし、コミュニケーションがはかれるからである。とにもかくにもレポートや小論文まで利用して、「国語史」をやり終えた。テキストを読むのは学生主体、画面にまとめ、解説するのが教師の役目、そんなふうにして、15回。頑張りぬいた学生にエールをおくりたい。